

◆今期間のポイント

<主要じょう乱の概要>

- 台風第9号については最新の台風予報を参照。
- 31日にかけて、高気圧が本州付近を覆う。
- 1日と2日は、気圧の尾根が千島の東から北日本付近にのび、気圧の谷が黄海から西日本付近にのびる。

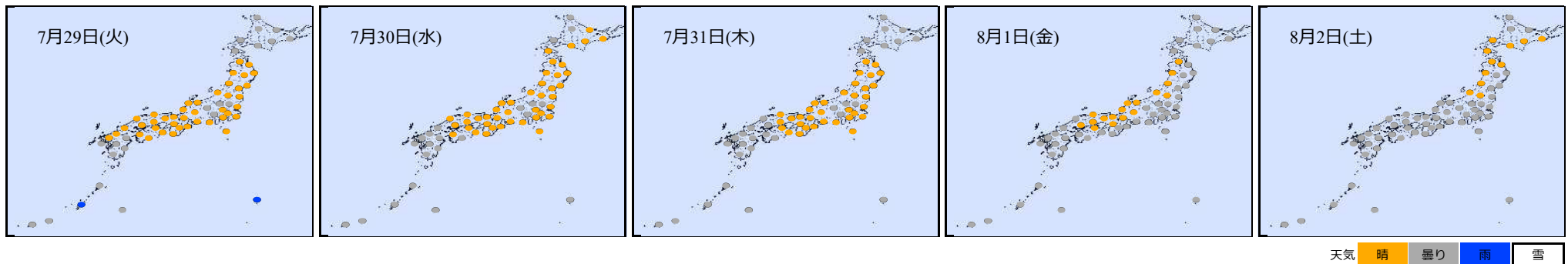
<防災事項> 11時、17時発表の早期注意情報に合わせて当項目は修正する場合があります。

- 29日頃にかけて、小笠原諸島は台風第9号の進路等によっては大しけとなるおそれがある。
- 北日本から西日本にかけては、気温がかなり高くなり、最高気温が35度以上となる所がある見込み。熱中症など健康管理に注意。

※最新の早期注意情報、気象情報、台風予報も参照ください。

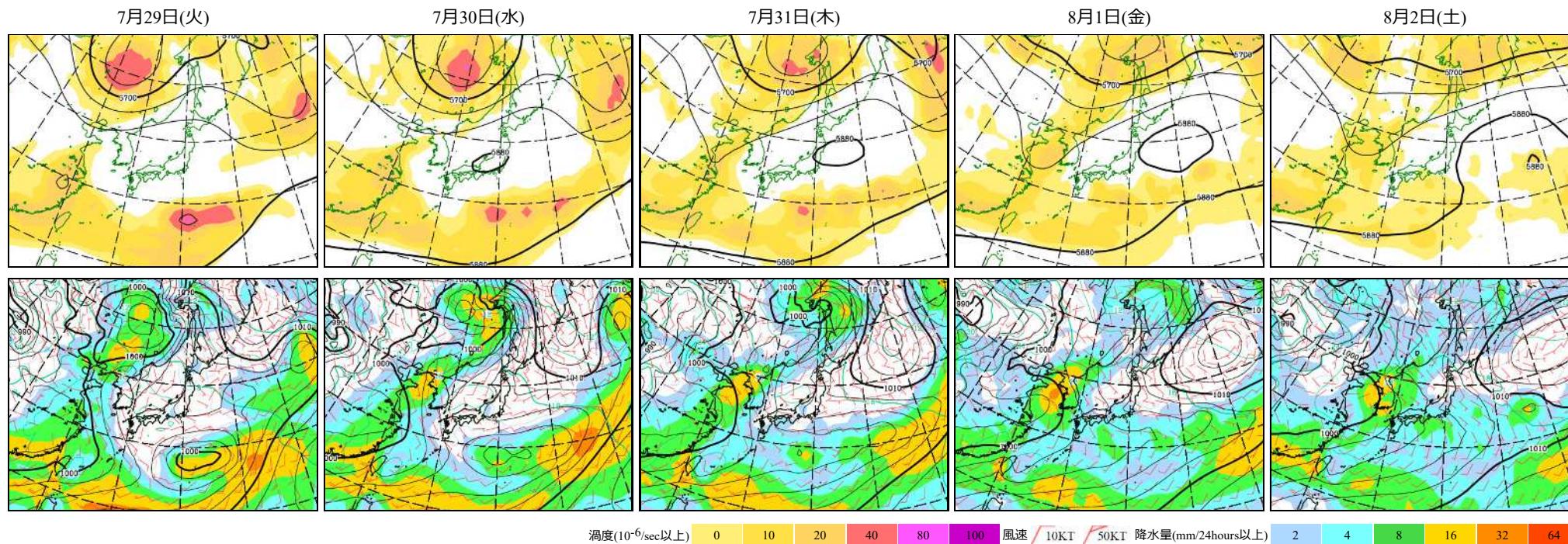
以下の資料は、気象事業者等が、気象庁の提供する週間天気予報の根拠を理解するための補助資料であり、そのままの形式で一般に提供することを想定して作成したものではありません。

◆10時時点の3～7日目の天気予報案 (11時以降は気象庁HP等にて発表予報をご利用ください。)

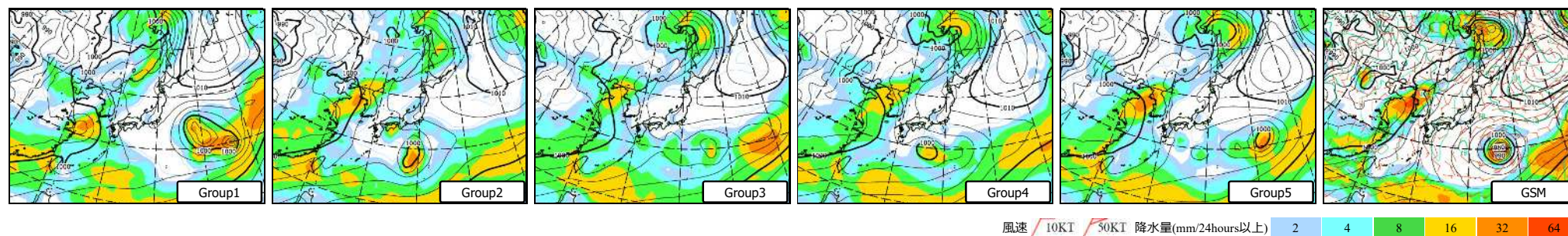


- 北日本と東日本、西日本は、晴れや曇りの日が多い。
- 沖縄・奄美は曇りの日が多く、29日は雨の降る所がある。

◆アンサンブル(ENS)平均予想図 上図：500hPa高度線、渦度 下図：海面気圧、地上風、前24時間降水量(21時)



◆7月31日のENSクラスター平均(グループ1～5)とGSMの地上予想図 海面気圧、地上風(GSMのみ)、前24時間降水量(21時)



◆昨日資料からの変化と予想のばらつき

- 最新のアンサンブル資料(ENS)は、期間を通して日本の南の気圧の谷が深くなった。30日から8月1日にかけて千島の東の高気圧が強くなった。
- 降水確率ガイダンスは大きな変化はないが、8月1日に北海道と九州北部の降水確率が下がった。
- スプレッドは比較的小さいが、期間の終わりにはやや大きくなる。期間後半は台風第9号を含む熱帯じょう乱についてモデル間のバラつきが大きい。

◆ENSからの修正点とサブシナリオ等の補足事項

- 予報は、おおむね最新のENSを基に考える。

今日から明日までの解説は「短期予報解説資料」を参照ください。